

名城大学機械会誌

発行所
名古屋市天白区塩釜口1丁目501番地
名城大学理工学部機械システム工学科内
名城大学機械会
TEL 052 832 - 1151 (代)
FAX 052 832 - 1235
URL: <http://meijo-rikou-dousoukai.jp/kikaikai/index.html>

名城大学機械会 第56回総会のご案内

下記のように第55回総会を開催します。
会員諸氏の多数の御出席を心よりお待ちしております。

名城大学機械会 会長 澤柳 正道

- 日時 平成25年6月16日(日) 9:30~10:20
場所 名城大学 天白キャンパス 共通講義棟南館 S402教室
議題
- ・平成24年度事業経過報告および会計報告
 - ・平成25年度事業計画案および予算案
 - ・その他

なお、終了後理工同窓会総会、記念講演会、懇親会が開催されます。



講演題目：大学を取り巻く環境と名城大学の現状

第12回新春交流会講演会講師
名城大学常勤理事 板橋一雄氏

新春交流会 応援団による演舞



ご 挨拶

機械会会長 澤柳 正道
昭和41年卒



名城大学機械会の会員の皆様
お元気にお過ごしのこと心より
お慶びを申し上げます。

日本経済も十数年の長きに亘り
デフレから脱却出来ず、皆様
の日常生活に停滞感が続いてまい
りましたが、アベノミクス政策による心理的効果
といえ、久しぶりに期待を抱かせる平成25年度で
は無いでしょうか！

さて我が機械会も今年には56年目に入り、この機
械会誌も第47号の発行となります。これは名城大
学の各学科同窓会の中で一番の歴史でございます
から どうぞ胸を張って頂きたいと思えます。これ
も偏に会員皆様方と学内の先生方により長きに
亘るご支援の賜と機械会評議員一同心より感謝い
たしております。

ここで機械会の会員の皆様方が全員に参加して
頂ける、平成24年度の二代イベントの結果報告を
させていただきます。(平成25年度の開催は5月末に配
布される機械会誌の表紙とHPに掲載)

・第一には、恒例の第十二回機械会新春交流会も
平成25年1月19日(土)ホテル名古屋ガーデンパ
レスにて開催され、ご多用の中100名の参加を頂き
ました。当日は昭和32年卒業(80才)の大先輩から
若き院生まで幅広い年代の方々の参加を頂き、
新春の喜びと名城大学の機械工学科同窓生の「更
なる深い絆」が結ばれ有意義な祝宴でありました
ことをご報告させていただきます。平成25年度はこの
新春交流会も第十三回となりますが、10年ぶりに
天白キャンパスのタワー75のレセプションホール
での開催が決定致しました。

学内での開催する目的は次の通りであります。

- (1) 名城大学を見学して頂き発展する我が母校
を実感する
- (2) 母校での開催することで「安い参加費」を
設定し年配の方々及び若い方がより多数参
加し易くする
- (3) 学内の研究室の先生との再会を楽しんで頂
く
- (4) 母校にて開催することで リラックスな装
いで参加して頂く
- (5) 本年度現役の4年生にも参加を企画致す予
定

・第二には、第56回機械会総会が平成24年度6月
17日に名城大学天白キャンパスで開催され平成23
年度の一年間の活動報告と平成24年度の事業計画
を発表させて頂きましたが、参加者が二十数名と
非常に少く残念でした。

機械会の発展の為に幅広い年代の方から「屈託
なき意見」を直接お聞かせ下さることにより「魅
力ある皆様の機械会」して行きたいと考えており
ます。参加せず批判するコトより参加して意見を
出すことが本当の改革であると思いませんか！そ
の他機械会の活動につきましては、平成24年度事
業報告をご参照ください。

以上の様な活動する名城大学機械会を理解し、
ご協力をして下さいますようお願いを申し上げます。

それでは機械会の会員の皆様の益々のご隆盛と
ご健勝をお祈り申し上げ、私の挨拶とさせていただきます。

名城大学機械会第13回新春交流会開催のお知らせ

日 時：平成26年1月25日(土) 時間は未定
場 所：名城大学タワー75 レセプションホール
会 費：未定
問合先 澤柳 正道(機械会会長)

TEL 090-4253-3661 メール agw29450@pop26.odn.ne.jp
詳細につきましては12月初旬ホームページにてご案内します
URL:<http://meijo-rikou-dousoukai.jp/kikaikai/index.html>

機械工学科のリニューアル報告

機械システム工学科

学科長 アブラハ・ペトロス



平成25年度の学科長を務めさせていただきますアブラハです。常日頃機械会からは機械工学科の教育・研究・各種行事に対しまして、ご支援を頂き、心から熱くお礼を申し上げます。

平成25年3月には、機械システム工学科を131名の学生が卒業し、新たに機械会のメンバーとなりました。卒業生の103名が中部地区を中心とした企業へ就職し、18名が大学院へ進学しました。また、卒業生の内24名が日本技術者教育認定機構（JABEE）の卒業要件を満たして修了され、修習技術者の資格を得て卒業されました。

機械システム工学科は、平成25年度から機械工学科へとリニューアルしました。学科名称だけでなく、1年次から専門分野に触れることのできるカリキュラムを活用した新たな取り組みを行っています。ここでは、リニューアルの中身として、理工学部の新学科の新設、機械工学科の新カリキュラム、JABEEの新基準への取り組みについて取り上げたいと思います。

まず、理工学部の新学科の新設ですが、平成25年度4月より「応用化学科」と「メカトロニクス工学科」の2つの学科の新設を実施しました。メカトロニクス工学科は機械工学科と連携した形でカリキュラムを組んでおり、制御・情報分野におられました3名の旧機械システム工学科の教員がメカトロニクス工学科へ異動され、機械工学科の教員数がスリム化して15名となりました。新しいカリキュラムから制御系の科目がなくなるわけではなく、これら機械工学科の制御系の科目は当面メカトロニクス工学科へ異動した先生方が担当することになっています。

機械工学科のカリキュラムの具体的な内容につ

いては、機械工学の基礎となる材料力学、機械力学、熱力学、流体力学を重点科目として、機械のしくみや現象を理解するための機械工学の専門知識を段階的に掘り下げ、更に技術者に必要な倫理観と国際感覚を交流させた科目を用意しました。具体的に追加した科目は、機械技術者倫理、新技術概論、CAE、計測工学、機械工学概論、技術英語等々で、4年間にわたって学びを掘り下げるカリキュラムへと一新し、これからの時代にふさわしい教育を提供する機械工学科へと進化しました。以上のような科目を4分野「熱・流体」、「材料・強度」、「設計・生産」、「運動力学・制御」に分けて運用をしています。

このような新しいカリキュラムは、JABEEの新基準にも適応できるよう設計しました。昨年度は、JABEEの中間審査を受け、平成24年4月1日から3年間の認定を得ました。審査に際してのJABEE審査員の指摘および本学科のPDCA委員会で取り上げた改善点などを踏まえて、新しいミッション（使命）「適切な教育環境を提供することにより、人間的にも技術的にも自立して機械設計や問題解決に取り組むことができる技術者として、社会に貢献する人材を育成する」を設置しました。この使命に対して教育目標と教育成果を確認しながら、教員一同が日々教育に取り組んでいますので、機械会の皆様の更なるご指導とご支援を心よりお願い申し上げます。

ご 挨拶

元機械会会長 堀川 浩良
昭和39年卒



第56回機械会総会おめでとう
ございます。大勢の皆様の参加
により盛大に開催されます事を
心よりお喜び申し上げます。又、
日頃は校友会発展の為に御協力を

頂いております事を心よりお礼申し上げます。

私、昨年(2013年)の7月15日に校友会会長に選出されました。その際は、機械会の皆様からの沢山の御支援と御協力を頂きました。そのおかげで、選挙に当選させて頂いたのだと感謝申し上げます。

さて機械会は、理工同窓会でもリーダーシップのとれる学科卒業生の会であり、機械会、理工同窓会、校友会、学校法人の評議員、そして理事と幾多の有能な先輩を輩出されて来ました。私もこの方々に負けぬ様、努力し続けねばと思っています。

7月15日の校友会会長就任以来よりこの方、20余の支部総会に参加して参りましたし、各会の記念事業にも参加して参りました。

校友会は、御存知の通り台湾支部をはじめ37各県支部があります。各県支部それぞれお悩みをお持ちです。各県支部においては総会の参加者の少ない所は、支部援助金の削減又は、統合の話や老齢化等の問題が出ています。

学部同窓会も他人事ではありません。卒業生の人員割で運営費が入金されていますが、本当にそれに値する活動がなされ、運営がされ、活用がなされ、企画がされているのでしょうか。

学部同窓会は各同窓会の活動の良し悪しを見計られています。同じ学科卒業生の会でも、他学部の活動を見てみますと、年会費納入状態のチェックをしたり、2011年3月11日の東日本大震災支援の為の募金を毎年やったり、毎年大学に一定額の寄付をしたりしています。

又、一方では、これらの活動と比べれば全く異なる考え方で、総会の費用を全額同窓会持ちで開催されている所もあります。

総会をやれば、同窓会活動は全てなのか疑問に思えます。

大学も今年度より費用の見直しがあります。費用対効果や又、健全運営の為に収支差額向上等の為に費用の見直しがありました。名城dayも〇〇周年のみとなります。地区別懇談会も2ヶ所から1ヶ所になりました。

機械会の総会には、卒業生の年次毎に2名の出席があれば、総会出席者は100名を超えます。先輩2名、同輩2名、後輩2名の輪をつなげていけば、40人や50人の総会なんておかしいのです。こんな状況の中、卒業生である我々は、時代に応じた心構えと変革と成長が必要です。

卒業生は大学にかかわる時、個人での費用負担が当然あります。OBは、後輩の為に費用の分担をしなければなりません。後輩の為に使えるお金ぐらいいは捻出せねばなりません。これらの事を、まず最初に率先、垂範される機械会であって欲しいと思っています。

貴会の益々の御隆盛、御発展を願い、加うるに会員各位のご健康を念じ挨拶とさせていただきます。

第6回名城大学機械会「機械会賞」授与式

平成24年度 [第6回]

名城大学「機械会賞」受賞者

(平成25年3月19日受賞)

学年	氏名	所属研究室
4	中村 知樹	固体・江上ゼミ
4	岩田 和大	制御情報・楊ゼミ
4	白木 雅規	設計・大槻ゼミ
4	小菅 哲也	熱・小島ゼミ
4	田中 大崇	流体・久保ゼミ
4	勝野 喬雄	生産・福田ゼミ



左から中村くん、岩田くん、白木くん、澤柳会長、小菅くん、田中くん、勝野くん

受賞のことば

この度は、機械会賞を授与していただき、心より感謝申し上げます。このことに関しましては、大変名誉なことであると感じております。今後の抱負としましては、来年度から私は名城大学の大学院へ進学しますので、名城大学の名に恥じぬよう、学部生の時以上に勉学と研究に取り組みます。そして、社会に出たときには名城大学で学んだことを活かし、活躍していきたいと考えております。』



中村 知樹

この度は、機械会賞表彰の場を頂戴しましてありがとうございます。このような受賞の機会を頂きましたことは、卒業生として大変光栄に思います。名城大学入学時は勉強に大変苦労しましたが、多くの友人に支えられ勉強することができました。また、卒業研究では多くの先輩方、先生方に大変お世話になりました。この大学で学べてよかったと実感しています。



岩田 和大

私は、4月から設計の仕事をするのですが、その中で自分がより多くの技術や知識を吸収し、経験を積むことで成長していけるような人間でありたいと思います。今回の受賞を受けたことを胸に、より一層努力していきたいと思っています。

この度は、機械会賞を頂きまして誠にありがとうございます。この賞を頂きました事に恥じないような行動を心掛け、これ以後は機械会の一員として、より一層の責任感を持ち、行動したいと思います。



白木 雅規

来年度の抱負としましては、熱心に勉学に励むのは当然として、研究活動においてはより一層熱心に粘り強く取り組みたいと考えております。そして、出来る限り多くその成果を学会をはじめとする発表の場で披露できるように頑張りたいと思います。

この度、このような栄えある表彰をいただきまして、大変うれしく思います。

これは決して私一人の力ではなく、ご指導してくださった小島晋爾教授や機械システム工学科の教授の方々、そして共に切磋琢磨してきた小島研究室のみなさんと、これまで応援してくれた家族のおかげです。この場を借りて心からお礼申し上げます。ありがとうございました。



小菅 哲也

この受賞を機に初心に立ち返り、これからも社会に貢献できる技術者を目指して精進していくつもりです。皆様には今後とも一層のご指導ご鞭撻を賜りますことお願いしまして、私の挨拶とさせていただきます。まことにありがとうございました。

このたびは機械会賞を受賞できたことを大変光栄に思います。このような賞を頂きましたのも、御指導して頂いた久保先生・先輩方、また同じ研究室の仲間や大学の友人の支えてくれたお陰です。皆様に心より感謝を申し上げます。



田中 大崇

私は感温塗料による温度測定システムの開発を進めてきました。この研究はこれからも私にとって重要な研究課題となります。まだまだ改善点がありますが、より一層研究に励んでいきたいと思っておりますので、今後ともよろしくお祈りいたします。

この度、このような栄誉ある機械会賞を賜りましたことは、まことに身にあまる光栄でございます。厚く御礼申し上げます。

今回このような形で受賞できたのは、先生方のご指導や先輩らの支えによるものであると感じています。これのみに満足せず、学会活動において他の賞もいただけるよう日々精進していきたいと思っております。今後の機械会の活動においては、皆様の期待に応えられるように精一杯努力していきたいと思っております。最後に、名城大学機械会の今後の発展を願ひまして受賞の挨拶とさせていただきます。



勝野 喬雄

第5回機械会杯ゴルフ大会開催について

昨年、平成24年10月21日（日）に第4回機械会杯を貞宝カントリークラブにて行いました。校友会会長堀川様のご挨拶をはじめとし、同副会長の庵原様に参加いただけ、お蔭様で、すがすがしい環境の中でプレーすることができました。

海外出張・行事の都合等で、参加者が少なかったのは残念でしたが、白熱した大会となり楽しく大いに親睦を深める事ができました。優勝の行方は4年間連続・ベスグロの藤原氏（H1年）が服部氏（S42年）を0.6ポイントリードし、栄冠に輝きました。

今年も第5回目を開催いたします、日時を再検討し、前々年度の6組を上回る大会に発展できるよう、今回参加の皆様も、機械会会員の皆様が大勢参加していただけますようお願いいたします。

8月下旬名城大学機械会ホームページで詳しくお知らせします

日 時：平成25年9月8日（日）

場 所 デイリー瑞浪カントリー倶楽部

住 所 瑞浪市釜戸町1068番地

申込み組数 5組の予定

電 話 0572-63-1122

プレー代 14,800円（個人清算）朝コーヒー・昼食（1ドリンク）・売店（1ドリンク）、
パーティ（1ドリンク）付

参加費 2,000円

参加時間・スタート時間 未定（7/1日：ウェブゲストにて申込みします）



第4回機械会ゴルフ大会参加の皆さん



名城大学機械会優勝杯
（機械会会長 澤柳様より藤原氏へ
授与）

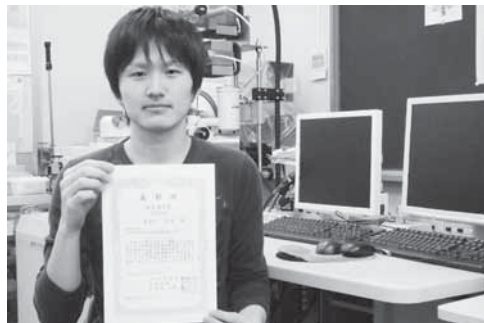
トピックス

日本材料学会東海支部第7回学術講演会で優秀講演賞（学術部門）を受賞

機械システム工学専攻 / 長谷川弘幸君（来海研）

2013年3月4日（月）に名古屋工業大学（名古屋市昭和区）で開催されました日本材料学会東海支部第7回学術講演会におきまして、名城大学大学院理工学研究科機械システム工学専攻の来海研究室の長谷川弘幸君が優秀講演賞（学術部門）を受賞しました。この優秀講演賞は30歳未満の発表者のうち優秀な発表に贈られる賞で、受賞した講演題目は以下の通りです。

・長谷川弘幸、榊原将芝（現：アイシンAW）、田中啓介、来海博央：「結晶粒径制御した多層薄膜の疲労特性」



長谷川弘幸君

日本熱処理技術協会第3回中部支部講演会でベストプレゼンテーション賞、研究発表優秀賞、研究発表奨励賞を受賞

機械システム工学専攻 / 来海研究室 藤井琢士君、伊藤盛雄君、高木貴文君
機械システム工学専攻 / 江上研究室 酒井翔太郎君

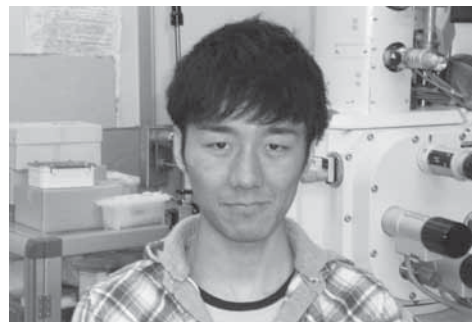
2013年3月6日（水）に名城大学名駅サテライト（名古屋市中村区）で開催されました日本熱処理技術協会第3回中部支部講演会におきまして、名城大学大学院理工学研究科機械システム工学専攻の藤井琢士君（来海研）がベストプレゼンテーション賞、伊藤盛生君（来海研、現アイシンAW）が研究発表優秀賞、高木貴文君（来海研、現京セラ）ならびに酒井翔太郎君（江上研）が研究発表奨励賞を受賞しました。受賞した講演題目は以下の通りです。

・藤井琢士、内村将大（トヨタ自動車）、藤山一成、来海博央：「FIBセクションング/EBSD法による遮熱コーティングの3次元微視組織評価」

・伊藤盛生、渡辺翔斗、阿知波秀希（アンデン）、浅岡幸靖（名大院）、藤山一成、正 来海博央：「EBSD法を用いた単軸引張過程で生じる塑性ひずみ評価」

・高木貴文、安江佑介、来海博央：「Phase-field 法を用いた多結晶チタン酸バリウム内のドメイン形成およびドメインスイッチング解析」

・酒井翔太郎、中村知樹、堀川浩良（東亜塗装）、江上 登：「炭素繊維廃材を利用した断熱材への適用についての提案」



ベストプレゼンテーション賞の藤井君

平成24年度 日本設備管理学会東海支部学生研究発表大会 最優秀発表奨励賞

勝野喬雄さん（理工学部機械システム工学科4年、福田康明教授研究室）

研究発表テーマ

組立作業における筋負担の基礎的研究

発表内容は工場の組立作業者をモデル化した筋負担の実験研究より、作業者の筋負担を軽減した基礎評価指標モデルを構築した。

同君は本大学院に進学が決まっております、今度の研究活動が期待される。



勝野喬雄さん

日本材料学会東海支部第6回学術講演会で理工学研究科生3人が優秀講演賞を受賞

日本材料学会東海支部の第6回学術講演会が3月5日、名城大学名駅サテライト開催され、大学院理工学研究科機械システム工学専攻2年の3人が優秀講演賞（学術部門）を受賞しました。

受賞したのは、伊藤盛生さん（来海（きまち）博央研究室）、所昇平さんと日比野光男さん（江上登研究室）。優秀講演賞は30歳未満の発表者のうち優秀な発表に贈られる賞です。受賞した講演題目は、伊藤さんが「引張負荷により生じる塑性ひずみのEBSD評価」、所さんが「短繊維強化樹脂材料のX線応力測定」、日比野さんが「短繊維強化プラスチックにおける疲労き裂進展挙動の破壊力学的研究」でした。



左から伊藤さん、所さん、日比野さん

日本熱処理技術協会第2回中部支部講演会で理工学研究科の3人が受賞

日本熱処理技術協会の第2回中部支部講演会が3月6日、名城大学名駅サテライトで開催され、大学院理工学研究科機械システム工学専攻の若園零二さん（来海（きまち）博央研究室、当時2年）がベストプレゼンテーション賞に、内村将大さん（同）が研究発表優秀賞を受賞しました。また、大学院理工学研究科機械システム工学専攻2年の梅村憲史さん（江上登研究室）も研究発表奨励賞を受賞しました。

これらの賞は優秀な講演者に贈られるもので、講演題目は、若園さんが「圧電セラミックス（PZT）のき裂進展に及ぼすドメインスイッチングの影響」、内村さんが「FIB/EBSDによる遮熱コーティングの微視組織評価」、梅村さんが「SUS316鋼の疲労特性に及ぼす低温浸炭および低温窒化処理の影響」でした。



若園さんに贈られたベストプレゼンテーション賞の表彰状と内村さん（左）と梅村さん

OB近況報告

理工学部機械工学科 杉山 俊昌
平成6年卒



こんにちは。現在、私は富士精工(株)に勤めて、富士精工子会社 Accuromm Central Europe に赴任中です。主に超硬工具の製作・治具工具類の販売

をしております。

会社の所在はポーランド、ラスコピチェになります。ポーランドは日本の約2/3の面積、人口は約3600万人、プロツワフ市は、人口約60万人の第四番目の都市になります。そこから南東35kmほど行ったところにオフィスがあります。会社の従業員は20名、私とハンガリーのオフィスに現地駐在の日本人は、合わせて2名になります。

今年は、雪が多く4月中頃まで積っていましたが、最近春らしくなって来ました。プロツワフ市に住んで約2年が経ち、ポーランド語も勉強しているのですが、相変わらず挨拶程度しかできません。出張では、ドイツ、チェコ、ハンガリー、イギリスと通貨も言語も違います。社内・社外は英語が通じるのですが、現地のスポーツジム行くと、いつもいるメンバーから、ポーランド語で話しかけられて困ってしまいます。でも初めてのヨーロッパ、記憶に残るポーランド生活を送ることが出来きそうで楽しみです。

漸く生活と仕事が落ち着き、と言いたいところですが、まだまだ、仕事面は、日々勉強中になります。

最近、学生の友人からインタビューを受けました。その内容は、
「はじめてのマネジャーが陥りやすい失敗とは？」
「その経験からアドバイスできることは？」
彼は、マネジメント授業の一環として、実際の経験者からの生の声を集めているようです。30分くらいのインタビューで、私も考えさせられる質問

だったこと、また、逆に誰かからアドバイスが頂きたいと思いました。

出来れば、皆様からのアドバイス、ご連絡して頂けると幸いです。

ポーランドにお越しの折は是非、お声をかけてください。

それでは、また機械会でお会いできること楽しみにしております。



2012年度機械システム工学科就職状況

名城大学機械工学科 小島 晋爾



2012年度より機械システム工学科の就職委員を務めている小島です。2012年度の就職状況について報告致します。

2012年度の学部卒業生は131名(うち進学29名)、大学院修士課程修了生は65名でしたが、3月末現在で就職活動中の学生が4名残っているという状況にあります。求人状況に関しては決して悪くないと考えますが、単位取得のために就職活動を始めるのが遅かったとか、より良い企業への就職を希望して結果に満足できなかった、というのが進路を決めていない学生の気持ちのようです。

就職が決まった大手有名企業としては、(順不同)デンソー、スズキ、ヤマザキマザック、大同特殊鋼、大同メタル、東海ゴム、住友電装、矢崎総業、日本特殊陶業、トヨタ紡織、トヨタ車体、京セラ、リンナイ、愛三工業、愛知製鋼、大豊工業、東海理化電機製作所、ジェイテクト、アスモ、フタバ産業、アイシン精機、アイシン・エイ・ダブリュ、アイシン・エーアイ、アイシン高丘、東日本旅客鉄道、東海旅客鉄道、マキタ、アドヴィックス、ナブテスコ、中央精機、アンデン、デンソーテクノ等々が挙げられ、名古屋市役所に公務員として採用された学生も複数名おります。

以上のように、当学科の就職状況は依然として堅調な状況にあるとは思いますが、就職担当として感じるのは、いわゆる「おとなしい」学生はなかなか内定が貰えないということです。企業は明るく元気で応答が明確かつ適切な学生を求めています。この応答の明確さと適切さが最も重要という認識を学生諸君に持って欲しいのですが、これに気付いて日頃の鍛錬を惜しまない学生は少ないようです。もちろん学業成績に現れる学力と知識も企業及び職種毎に定まるある閾値を超える学生でなくてはなりません。また、面接において、緊張のためにアガったり、言葉に詰まるのでは企業も所定の時間内にその学生の良いところを把握することができません。人気企業には多くの学生が集まりますから、大学から推薦を頂いても自分を表現できない学生には残念ながら出ないということになるようです。OBの皆様方には周知のこ

とと思いますので、この記事でこのようなことを書いても詮無きことではあります。もし、小生の認識が間違っているということであれば、是非、御一報頂ければ幸いです。今後の就職指導の参考に致します。

もう一つ、就職担当をして知ったのは、適性検査として実施されることもあるいわゆるSPI試験の重要性です。これは一種の知能テストといつてもいいかもしれません。大学の学業成績とは必ずしも強い相関は無いようです。なぜなら、大学の講義に出て来る高度な知識を必要としないから。とはいうものの、基礎的なものの考え方や高校レベルまでの数学の応用力が試されます。SPI試験を難くこなせる学生は大学の授業について行くことも容易ではないかと思えます。ですから、高度な知識を必ずしも必要としない職種ではSPI試験やグループ面接を重視することになるようです。この点についてもOBの皆様の御意見をお聴かせ頂ければ幸いです。

最後に、近年の学生の就活スタイルについて言及したいと思います。就職担当教員のところには、企業から求人のために極めて多数の方が訪れて来られます。しかし、残念ながら、2012年度において私が企業に紹介した学生は極僅かでありました。現在では、インターネットウェブを通じて求人情報へのアクセスや学生からの情報収集が容易であるために、自由応募が主流となっており、学生から出される推薦希望も上記に挙げたような大手有名企業に偏っている状況です。極論すれば、大手有名企業でなければ推薦枠求人には目もくれない、という学生がほとんどです。そのような状況を鑑みて、今後、中小企業の方々には、「ここには眼をつむるがここだけはクリアして欲しい」という明確な学生像を示して頂く、と同時に企業の魅力をアピールするA4×1枚のポスター(これが中小企業と学生を結ぶ接点)の御持参をお願いしたいと考えております。

OBの皆様には、以上のような就職担当教員からの眺めに御理解を頂き、今後も引き続き、後輩学生の就職活動に対して御指導と御支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成24年度事業報告

平成24年度の事業経過は以下の通りです。

1. 名城大学機械会誌第46号を発行し、会員各位に送付した。
 2. 名城大学機械会第55回総会を次の通り開催した。
 - ・日時：平成24年6月17日（日）9:30～10:20
 - ・場所：名城大学共通講義棟S-402講義室
 - * 審議・報告事項*
 - (1) 澤柳会長挨拶の後、平成23年度事業報告および会計報告がなされ、承認された。
 - (2) 平成24年度事業計画（案）および予算（案）について審議し、承認された。
 3. JABEEに伴う外部評価委員会の活動への参画
 4. 平成24年度 第12回機械会「新春交流会」が80余名の出席者のもと、盛況裡に開催された。
 - ・日時：平成25年1月19日（土）（18:00～20:00）
 - ・場所：ホテル名古屋ガーデンパレス（中区錦3）
 - * 今年度の「新春交流会」は昨年同様二部構成として開催された。
 - 部行事：講演会（17:00～17:45）
 - ・講師：板橋 一雄 氏
名城大学常勤理事・教授
 - ・演題：「大学を取り巻く環境と名城大学の現状」
 - 部行事：交流パーティー（18:00～20:00）
- オープニングは本学応援団による力強い学歌斉唱で始まり、続いて澤柳会長の挨拶および会長としての抱負が述べられた。来賓挨拶、

乾杯の後、盛大な新春交流会に終始した。

5. 次の学生行事に対し援助を行った。
 - (1) 名城大学機械会杯(第43回)&機械工学科長杯争奪ソフトボール大会('12.9.12)への援助
 - * 澤柳会長が出席して挨拶および始球式を行い、親睦会において、優勝チーム（宇佐美ゼミ）に賞状、機械会杯および優勝旗が授与され、準優勝チーム（大島ゼミ）および3位チーム（江上ゼミ）にそれぞれ、賞状および副賞が手渡された。
 - (2) 日本機械学会東海学生会・第42回「畠山杯争奪スポーツ大会」への援助。
 - * '12.11.17(土)名古屋大学グラウンドで開催され、宇佐美ゼミを代表チームとして参加し、他大学との交流、親睦を行った。
 - (3) 平成24年度卒業記念パーティー['13.3.19(火) 於名古屋ガーデンパレス]への援助。
 - * 澤柳会長が出席して卒業生に対し祝辞を述べるとともに、第6回「機械会賞」として、優れた学生6名に賞状および記念品を授与した。
 - (4) 準会員（在校生）へ機械会誌「46号」を配布した（上記5-(3)卒業時('13.3.19)）。
6. 機械会役員会・評議員会の開催

平成24年度において、1回の役員会および8回の評議員会（平成25年3月2日(土)最終）を開催し、種々審議を行った。

平成25年度事業計画（案）

本会会則に掲げる本会の目的達成に必要な事業を行うほか、本年度は特に次の事業を中心として活動する。

1. 名城大学機械会誌第47号を発行し、会員各位に送付
2. 機械会評議員会および役員会の開催
3. 名城大学機械会第56回総会開催
4. 平成25年度(第13回) 機械会「新春交流会」開催
5. JABEEに伴う外部評価委員会の活動への参画
6. 東日本大震災に対する義捐金の実施（継続予定）

7. 次の学生行事に対し援助を行う

- (1) 名城大学機械会杯(第44回)&機械工学科長杯争奪ソフトボール大会
- (2) 日本機械学会東海学生会・第43回畠山杯争奪スポーツ(ソフトボール等)大会
- (3) 平成25年度卒業記念パーティー
- (4) 「講演会」開催等
8. 準会員（在学生）へ機械会誌「47号」を配布
9. 平成25年度「機械会賞」の贈呈
10. その他